

基本方針の変更に係る参考資料

平成29年6月
国土交通省港湾局

成長著しい北東アジアに位置する日本～地理的に優位性のある日本～

- 我が国周辺の沿岸地域(中国主要沿海10省市、韓国、香港、台湾)の常住人口は約6億人。
- 国・地域別の訪日外国人旅行者数は、中国、韓国、台湾などアジアからの旅行者が8割強を占める。
- 中国をはじめとする近隣諸国・地域の経済成長とともに観光客の増加が期待される。

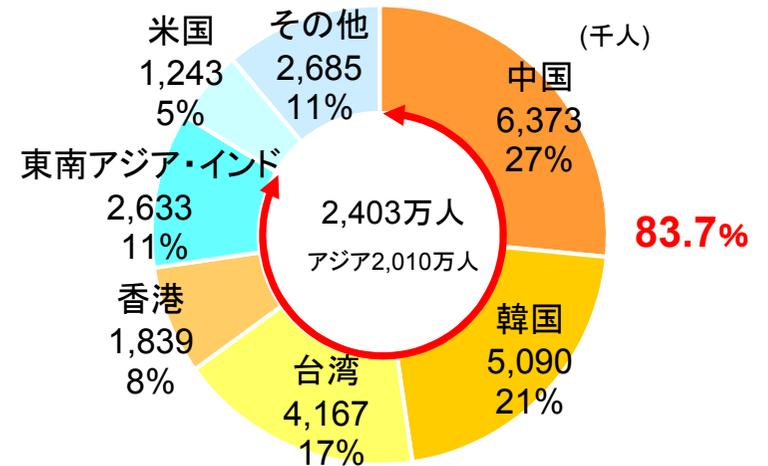
我が国周辺地域の人口



(※ 2014年の人口)

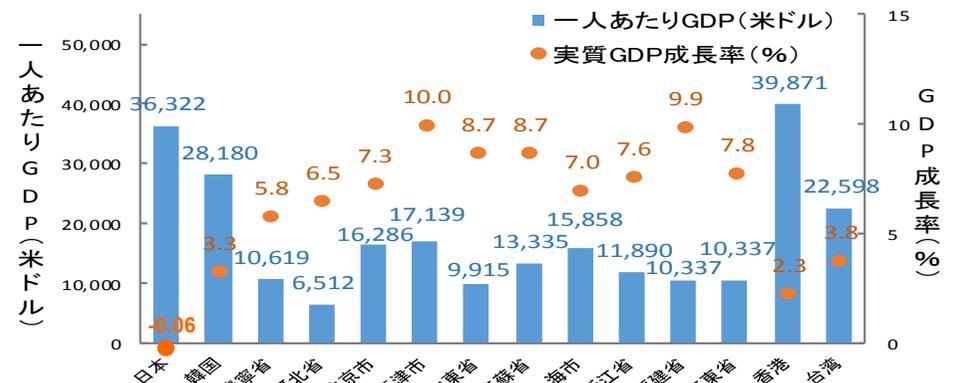
出典: 日本貿易振興機構(JETRO)「国・地域別情報」、中国国家统计局「China Statistical Yearbook」より港湾局作成

国・地域別訪日外国人旅行者数の割合(2016年推計値)



出典: 日本政府観光局(JNTO)資料より港湾局作成
 ※「東南アジア・インド」にはタイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インドを含み、「その他」には上記以外のアジアの国を含む。

我が国周辺国・地域の1人あたりGDPとGDP成長率(2014年)

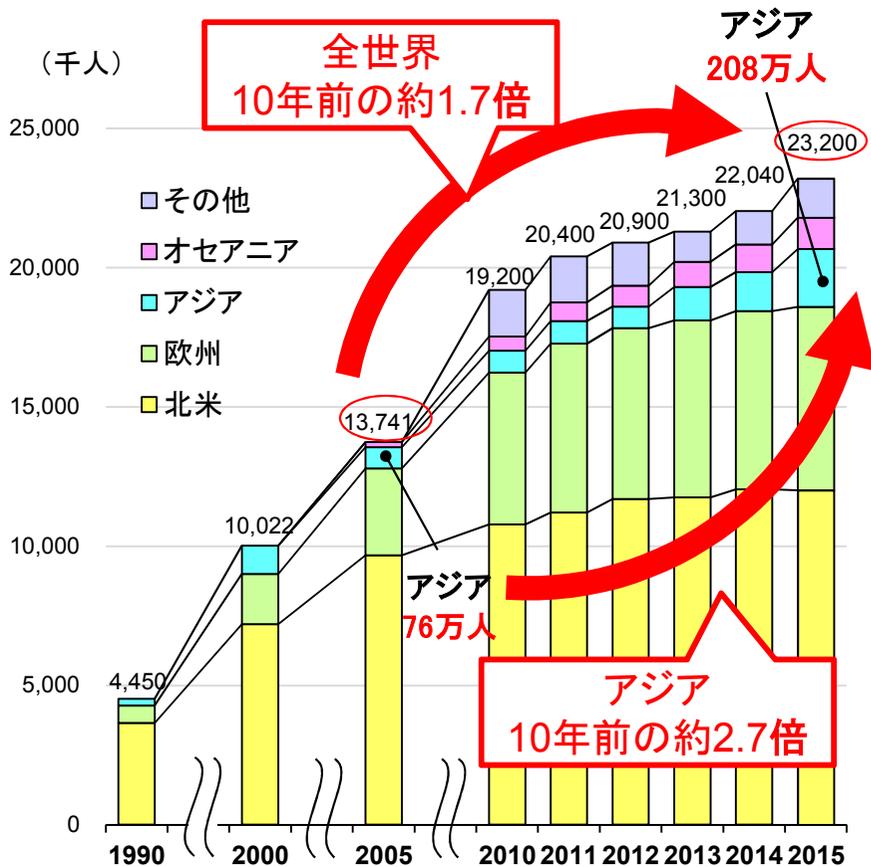


出典: 日本貿易振興機構(JETRO) 国・地域別情報

世界のクルーズ人口の推移とマーケットの構造

- 世界のクルーズ人口は2,320万人(2015年)で、10年前の約1.7倍と、急速に増加。
- 中でもアジアのクルーズ人口は208万人(2015年)で、10年前の約2.7倍と特に、大きな伸びを示している。また、将来的にも更なる増加が見込まれている。
- クルーズは、価格やサービスによってラグジュアリー、プレミアム、カジュアルなどのタイプがあり、カジュアルクラスがマーケット全体の約8割を占めている。

世界のクルーズ人口の推移



出典: CLIA資料より港湾局作成。
* 2011年以前のアジア数値はCLIAによる推定値。

将来のアジアのクルーズ人口の見込み

中国政府:
中国のクルーズ旅客数は、2013年から年平均33%で増加し、**2020年までに450万人に達する**
(出典) 中国交通运输部「クルーズ運輸業の健全な発展の持続促進に関する指導意見(2014.3.18)」

Seatrade Asia Pacific Cruise Congress (2016年10月、上海)におけるMSC中華圏代表Helen HUANG氏の発言:
CLIAが、2015年に100万人に近くであった中国のクルーズ人口が、**2020年までに450万人に達すると予測していることについて、「簡単なことではないが、中国では可能。」**
(出典) Seatrade Asia Pacific Cruise Congress HP (2016.10.13)

カーニバル社のAlan Buckelew氏(当時COO、現CIO):
中国のクルーズ人口が**2020年までに500万人に達する**
(出典) ザ・ウォール・ストリート・ジャーナル電子記事(2015.1.21)

世界のクルーズマーケットのイメージ

ラグジュアリー(フティック※・探検船等含む)

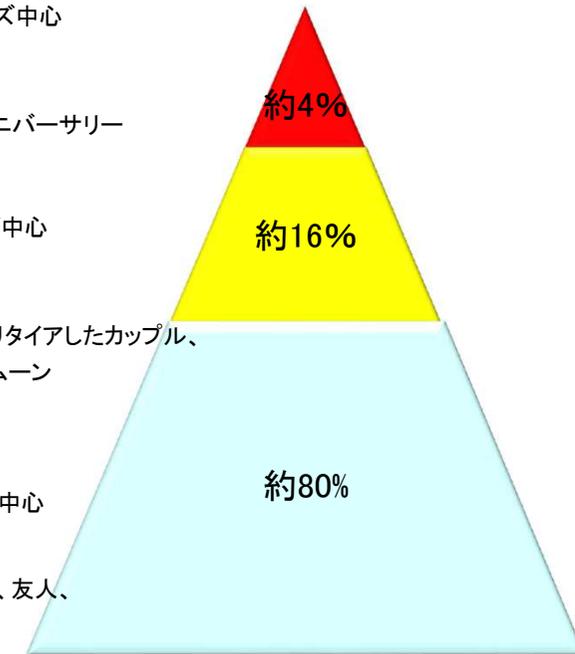
10泊以上のクルーズ中心
1泊: \$400~
年齢層: 50代以上、
タイプ: リタイア、アニバーサリー

プレミアム

7泊以上のクルーズ中心
1泊: \$200~
年齢層: 30代以上
タイプ: 熟年以上、リタイアしたカップル、友人、ハネムーン

カジュアル

3~7泊のクルーズ中心
1泊: \$70~
年齢層: 20代以上、
タイプ: 現役~熟年、友人、ファミリー



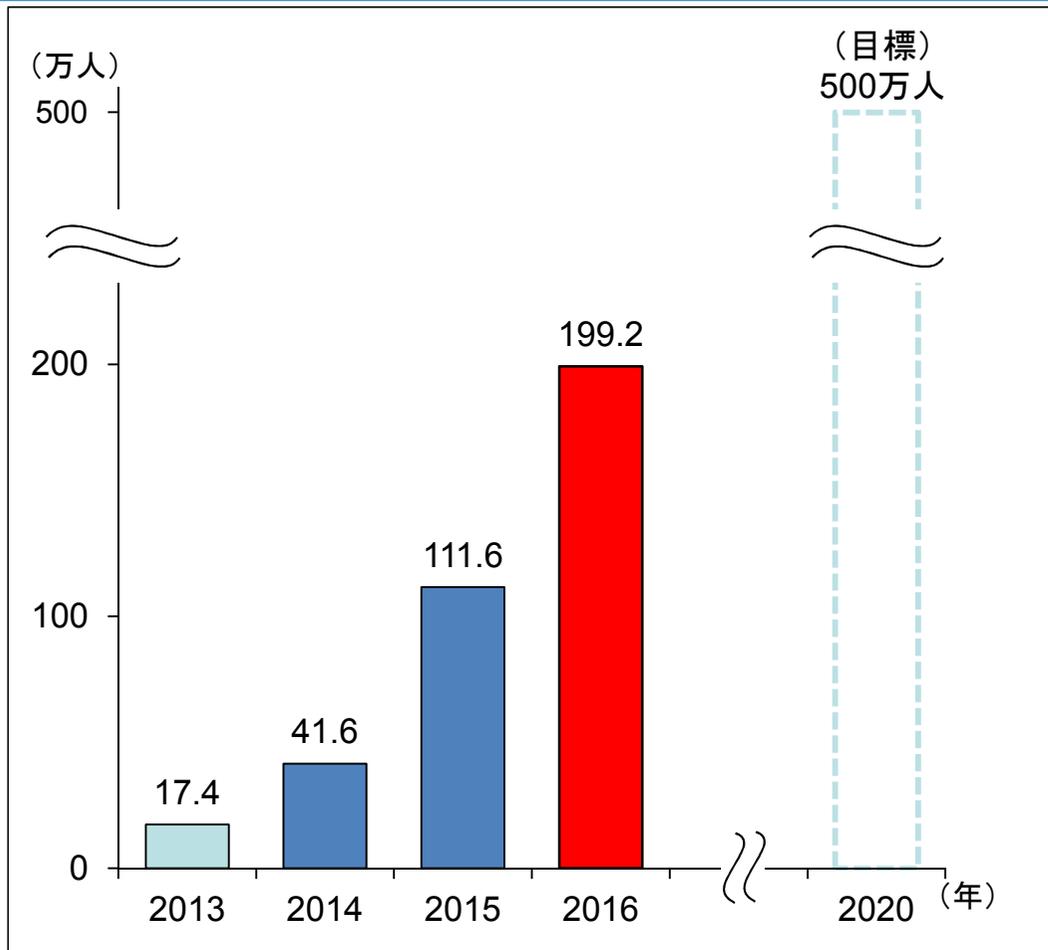
※小型の豪華客船によるクルーズ。料金は1泊あたり600米ドル以上。

出典: クルーズ教本(平成28年版)(JOPA)より港湾局作成

クルーズ船の寄港に関する状況

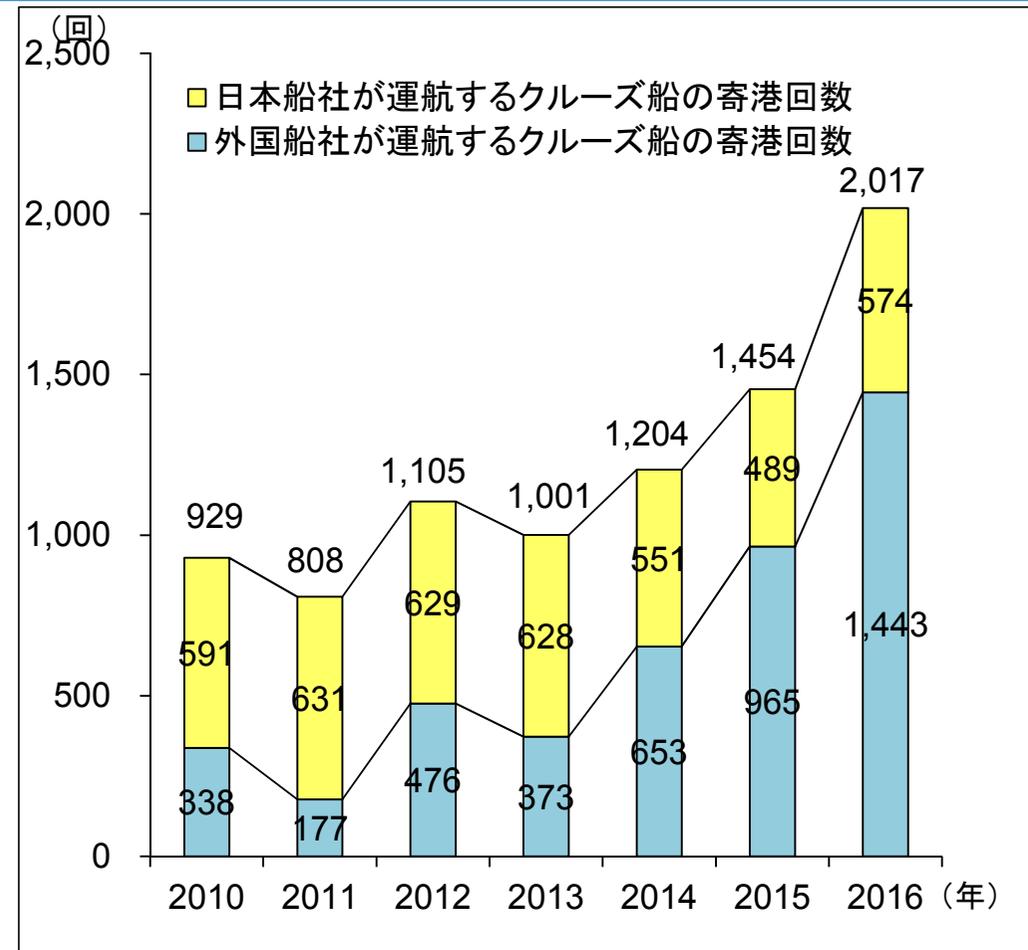
○2016年の訪日クルーズ旅客数は前年比78%増の199万人、我が国港湾への寄港回数は前年比39%増の2,017回（外国船社1,443回、日本船社574回）となり、いずれも過去最高。

※クルーズ: レジャーを目的とした船旅で宿泊を伴うもの



注1) 法務省入国管理局の集計による外国人入国者数で概数(乗員除く)。

注2) 1回のクルーズで複数の港に寄港するクルーズ船の外国人旅客についても、(各港で重複して計上するのではなく)1人の入国として計上している。



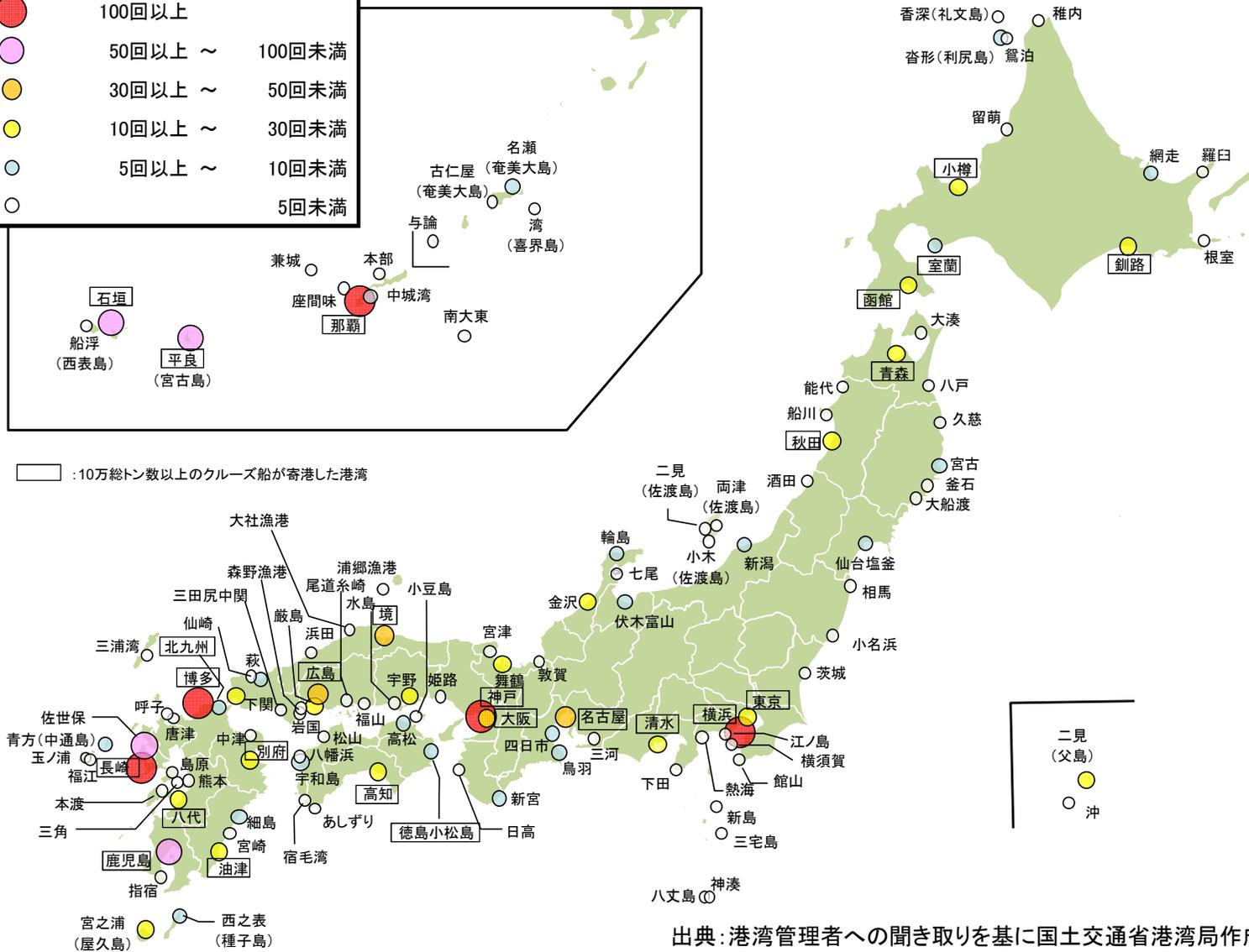
注) 2016年の値は、港湾管理者からの聞き取りによる速報値であり、今後、変動する可能性がある

クルーズ船が寄港する港湾

○ 2016年にクルーズ船が寄港した港湾の数は、全国で123港(2015年は104港)。
 ○ このうち、大型クルーズ船(10万総トン数以上)が寄港した港湾は26港。

クルーズ船の寄港する港湾(2016年)

凡例	
● (赤)	100回以上
● (紫)	50回以上 ~ 100回未満
● (黄)	30回以上 ~ 50回未満
● (黄)	10回以上 ~ 30回未満
○ (青)	5回以上 ~ 10回未満
○ (白)	5回未満



2016年クルーズ船の寄港回数(上位10港)

順位	港名	寄港回数
1位	博多港	328回
2位	長崎港	197回
3位	那覇港	193回
4位	横浜港	127回
5位	神戸港	104回
6位	石垣港	95回
7位	平良港	86回
8位	鹿児島港	83回
9位	佐世保港	64回
10位	広島港	47回

我が国に寄港するクルーズ船の最新動向

我が国に寄港する主なクルーズ船

2017年も引き続き、欧米大手クルーズ船社がアジア市場に大型クルーズ船を投入(4隻)。

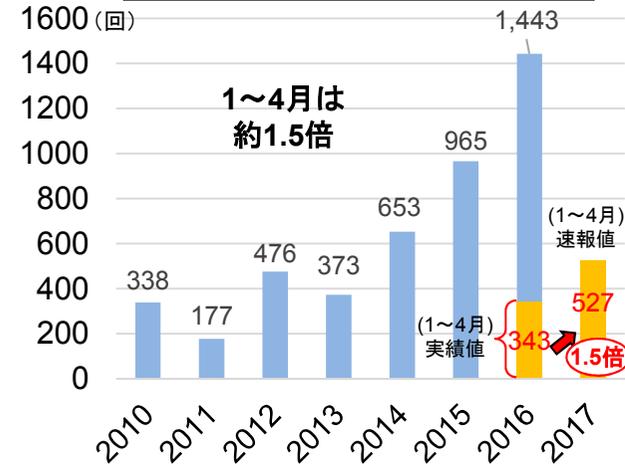
⇒ 寄港回数は引き続き増加中

- ノルウェージャン・ジョイ(新船)(ノルウェージャン・クルーズ・ライン社)
総トン数16.5万トン、乗客定員4,248人 ※7月アジア配船予定 6/8長崎港初寄港予定
- ゲンティン・ドリーム(新船)(ドリーム・クルーズ社)
総トン数15.1万トン、乗客定員3,352人 ※4月配船済、香港、沖縄
- マジェスティック・プリンセス(新船)(プリンセス・クルーズ社)
総トン数14.3万トン、乗客定員3,560人 ※7月アジア配船予定 7/3横浜港初寄港予定
- コスタ・ネオロマンチカ(コスタ・クルーズ社)
総トン数5.7万トン、乗客定員1,572人 ※4月アジア配船済、4/13平良港初寄港、4/26日本海周遊クルーズ開始



ゲンティン・ドリーム

外国船社の寄港回数の推移

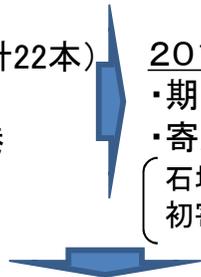


クルーズの全国展開に向けた動き(日本発着クルーズ)

プリンセス・クルーズ社

2013年から5年連続日本発着クルーズを就航。

- 2016年度(計22本)
 - ・期間: 7~9月
 - ・寄港地: 18港
 - 2017年度(計28本)
 - ・期間: 4~10月
 - ・寄港地: 19港
- (石垣、敦賀、広島に初寄港)



- 2018年度(計32本)
 - ・期間: 4月~10月 (23本)
 - ・寄港地: 29港
- (酒田、石巻、四日市、鳥羽、岩国等初寄港)

※2018年11月~2019年3月: 通年配船(9本)



ダイヤモンド・プリンセス
総トン数11.6万トン
乗客定員2,706人

コスタ・クルーズ社

2016年から日本海側で主に日本人を対象に日本発着周遊クルーズを開始。



- 2017年度(計48本)
 - ・船舶: コスタ・ネオロマンチカ
 - ・期間: 4~10月 (32本)
 - ・寄港地: 左図5港(博多、舞鶴、金沢、境港、釜山)に加え、新潟、酒田、青森、ウラジオストク、ソクチョ(韓国)に寄港
- ※ 2017年10月~2018年3月: 通年配船(16本)



コスタ・ネオロマンチカ
総トン数5.7万トン
乗客定員1,572人

スター・クルーズ社

2017年からインターポーティングによる日本発着周遊クルーズを開始予定。

- 2017年度(計20本)
 - ・船舶: スーパースター・ヴァーゴ
 - ・期間: 7~11月 (20本)
 - ・寄港地: 発着港としての3港(横浜、大阪、上海)と清水、鹿児島に寄港



スーパースター・ヴァーゴ
総トン数7.5万トン
乗客定員1,870人

※この他、クイーンエリザベス、MSCスプレンドイダ、ノルウェージャン・ジョイが日本発着クルーズに進出。 5

クルーズ船受入の更なる拡充「明日の日本を支える観光ビジョン」

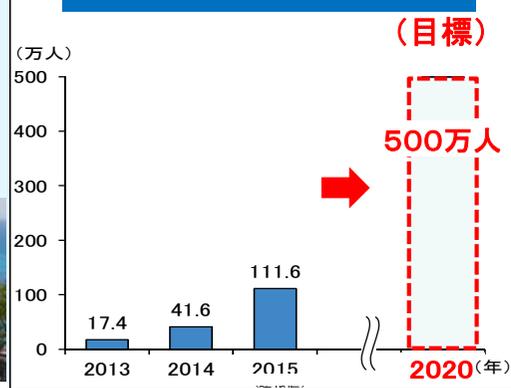
- 訪日外国人旅行者数の受入れ人数の目標として2020年に4,000万人（訪日クルーズ旅客は500万人）、2030年に6,000万人、訪日外国人旅行消費額の目標として2020年に8兆円、2030年に15兆円をそれぞれ目指すこととしている。
- クルーズ船に関しては、北東アジア海域をカリブ海のような世界的クルーズ市場に成長させ、クルーズ船寄港を活かした地方の創生を図ることとしている。

目指すべき将来像

カリブ海クルーズの様子



訪日クルーズ旅客数



現状・課題および今後の対応

現状・課題

- 増大するアジアのクルーズ需要を取り込み、クルーズ船の寄港が地域経済に与える効果を拡大することが必要。
- クルーズ船が寄港するための港湾施設や、クルーズ船の寄港に伴い発生する諸課題への対応が不足。
- 寄港地が西日本の一部の港に集中する傾向がある。



今後の対応

日本の各地をカジュアルからラグジュアリーまで幅広く対応したクルーズディスティネーションに
～瀬戸内と南西諸島を日本のエーゲ海・カリブ海に～

- 北東アジア海域をカリブ海のような世界的なクルーズ市場に（訪日クルーズ旅客を2020年に500万人、日本の各地をカジュアルからラグジュアリーまで幅広く対応したクルーズディスティネーションに）。

- ・クルーズ船寄港の「お断りゼロ」の実現（クルーズ船の受入環境を緊急整備（2015年度・全国10港）、クルーズ船寄港地マッチングサービスの提供 等）
- ・世界に誇る国際クルーズの拠点形成（旅客ターミナル整備への無利子貸付制度の創設等）
- ・瀬戸内海や南西諸島など新たな国内クルーズ周遊ルートの開拓、ラグジュアリークルーズ船の就航
- ・新たなクルーズビジネスの確立（官民の関係者からなる地域協議会や全国クルーズ活性化会議の活用、農水産物の販売環境の改善、「みなとオアシス」の活用、港湾協力団体制度の創設 等）
- ・全国クルーズ活性化会議と連携し、寄港地の全国展開に向けたプロモーション

「訪日クルーズ旅客500万人」の実現に向けた取組

北東アジア海域をカリブ海のような世界的なクルーズ市場に成長させ、クルーズ船の寄港を活かした地方の創生を図るため、目標を「訪日クルーズ旅客を2020年に500万人」とし、以下の施策を推進。

「お断りゼロ」の実現

クルーズ船の受入環境の緊急整備

〈清水港〉

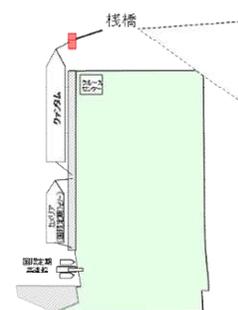
新しく設置した係船柱

既存の係船柱



係船柱の整備事例

〈博多港〉



栈橋の整備事例

ハード

クルーズ船寄港地マッチングサービス

クルーズ船社
(代理店)

寄港可能な
港湾を照会
←
寄港可能な
港湾を紹介

国土交通省港湾局
クルーズ
ワンストップ窓口

寄港可能な港湾を
抽出・調整
→
(あらかじめ)
情報を集約

全国クルーズ
活性化会議
(全国127自治体)

ソフト

寄港地の全国展開

ソフト

商談会の開催

- ・「全国クルーズ活性化会議」と連携して、クルーズ船社、自治体等が参加する商談会を開催。



寄港地情報の一元的発信

- ・クルーズ船社が必要とする情報をウェブサイトで一元的に発信
- ① 港湾施設の諸元
- ② 寄港地を起点とした観光情報

国際クルーズの拠点形成

官民連携による国際クルーズ拠点の形成

海外におけるクルーズ船社の投資例
ファルマス港(ジャマイカ)



クルーズ船社がショッピングエリアを整備

○岸壁の優先使用を希望する民間の投資意欲を活用し、クルーズ船の受入環境として必要な旅客ターミナルビルの整備を推進

公共(国・港湾管理者)

- ・港湾施設の整備
- ・クルーズ船社に対する岸壁の優先的な使用の確保 等

組み合わせ

民間(クルーズ船社)

- 旅客ターミナルビルの整備
への投資 等

ハード

ソフト

新たなクルーズビジネスの活用

ソフト

- ・みなとオアシスの活用
- ・港湾協力団体制度の活用
- ・Wi-Fi (観光拠点情報・交流施設) の整備支援

海外におけるクルーズ船の受入施設の事例

- 世界的なクルーズ需要の増大に対し、各国のクルーズ船受入港では、ターミナルビル、ボーディングブリッジ等を備えた利便性の高い旅客施設や商業施設等を整備している。
- 世界のクルーズ船社においては、自ら港湾地域に旅客施設等を整備し、寄港地としての魅力を高め、寄港の拠点としている例が存在。

マイアミ港(米国) (主に発着港)

岸壁延長: 約2,000m
水深: 9~11m
旅客施設: 7棟



ロイヤル・カリビアン社のクルーズターミナル



カーニバル・クルーズ・ライン社のクルーズターミナル

ファルマス港(ジャマイカ)

[ファルマス・ターミナル] (主に寄港港)

22万トン級対応: 1バース、他1バース
旅客施設: 1棟



ショッピングエリア



ショッピングエリアの様子

その他の港の事例



クルーズ船社が所有する旅客施設 (バルセロナ)



クルーズ船社が整備した商業施設の例 (タークス・カイコス諸島)